

脊柱管狭窄症・座骨神経痛には 「独活寄生丸」＋「プラセンタ」

腰と膝の痛みには独活寄生丸

寒くなってくると腰や膝の痛みが出始める方が増えてきます。運動不足を補うためにウォーキングを始める方も増えていますが、歩き始めたときには問題ないけれども、しばらくすると足のしびれや痛みが強くなって歩けなくなり、しばらく休むとまた歩けるようになる間欠性跛行（かんけつせいはこう）という症状でご相談に来られる方がいらつしやいます。

腰や膝の痛み、間欠性跛行には筋肉や骨の強化とトレーニングが必要ですが、そんな時に当店でおすすめしているのが「独活寄生丸（どっかつせいがん）」です。独活寄生丸には桑寄生（ソウキセイ）、杜仲（トチユウ）、独活（ドッコカツ）など一六種類の生薬が配合されており、腰や膝の痛みをとり、筋肉や骨を丈夫にし、血流をよくする働きがあります。冬場の痛みにもってこいの漢方なのです。

プラセンタで細胞の修復を

間欠性跛行がおきるもう一つの要因が「脊柱管狭窄症（せきちゆうかんきょうさくしやう）」です。これは加齢や外傷などにより脊柱管が細くなって神経が圧迫されるために痛みや痺れがおきます。安静にしていれば痛みや痺

れはなくなりません。手術を行えば圧迫をなくすることはできませんが、傷ついた神経は回復しないので症状が残ってしまうこともあります。

この症状には独活寄生丸とプラセンタを併用することで対処できます。プラセンタは胎盤から抽出される物質で、タンパク質・脂質・糖質をはじめ、アミノ酸やミネラル、一〇〇種類を超える酵素などを含んでおり、成長因子の働きを活発



手術で消えない痛みにも効く理由
手術で、痛みやしびれの原因となる神経への圧迫を除去しても、ダメージを受けた神経は回復せず症状も残る。しかし、プラセンタ療法を行えば神経の修復が促され、症状も消える例が少なくない。

化させる働きがあります。成長因子にはHGF（肝細胞増殖因子）やNGF（神経細胞増殖因子）などがあります。HGFの場合、肝臓だけにとどまらず全身の組織修復に関わっています。プラセンタを補うとこれら成長因子の産出が飛躍的に活発化し、その働きが大幅にアップします。また、プラセンタ自身に強力な抗炎症作用や血流促進作用が備わっています。こうした様々な作用が統合的に働く結果、神経や軟骨などの関節周囲の痛ん

だ組織が再生し、同時に炎症も鎮まり難治型腰痛や関節痛の痛みやはれが和らいでいくというわけです。脊柱管狭窄症に対してもダメージを受けた神経は手術では回復しませんが、プラセンタにより神経の修復が促され、痛みや痺れが消える例が少なくありません。本来、プラセンタは病院での一週間一度の注射が基本的な治療法ですが経口でも一日五〇〇から一〇〇〇ミリ摂取すれば同じ効果が得られます。長期に渡って服用することで一定量のプラセンタが体内で保てるので注射と同等の効果が得られます。

漢方療法推進会

「独活寄生丸」

六〇袋入り（1ヶ月分）

八、〇〇〇円＋税

タキザワ漢方廠 プラセンタ製剤

「ダブルリンクルX錠」

三六〇錠入り（1ヶ月分）

八、三〇〇円＋税



「独活寄生丸」「ダブルリンクルX錠」についてのご相談・質問は店頭だけでなく、お電話でも受け付けております。

「こころがワクワクするとからだも元気に」

やる気がおこらない、イライラしやすい、心配事ばかりで不安、うつ、眠れない方ケアバランスでこころを安定させ健康な毎日を送りましょう

ゆがの薬局

賀茂郡河津町浜149-4 TEL0558-34-0150
当店ウェブサイト <http://www.yugano-ph.co.jp>



1ヶ月分 8200円（税込）